令和６年度指定管理運営業務評価票

**資料１**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 施設名称：**大阪府立弥生文化博物館** | 指定管理者： AＫＮ共同事業体 | 指定期間：令和５年４月１日～令和８年３月31日 | 所管課：大阪府教育庁 文化財保護課 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価項目 | | 評価の基準（内容） | 指定管理者の自己評価  （12月記入） |  | 施設所管課の評価  （１月記入） |  | | | 評価委員会の指摘・提言 |
| 評価 | R5  評価 | R6  評価 | R7  評価 |  |
| S～C |
| **Ⅰ提案の履行状況に関する項目** | (1)施設の設置目的および管理運営方針 | ◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか  〇資料の収集・保管・展示  ○調査研究による最新の成果の発信  ・図録の刊行 2 回  〇池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館  　との一体的な活動  　・事業実施　２回 | ○資料の収集・保管・展示  ・常設展示室、特別展示室において、目視点検により展示品  を管理。  ・一般収蔵庫の棚に保管している土器等には転落防止のためのロープを設置している。  ・展示室及び一般・特別収蔵庫において温湿度データを集積。  ・特別収蔵庫温湿度のモニター監視。  ・ポジフィルム等の写真資料は学芸室の専用キャビネットで保管。  ・新規図書・購入図書等をデータベースに入力（計989冊）  ○調査研究による最新の成果の発信  ・図録２件（夏・秋季特別展、夏季は論考含む）を発行したほか、令和７年３月には、包括連携協定を結んでいる公益財団法人大阪府文化財センター職員による最新の発掘調査成果の発表を含む講演会を予定。  ・「「瓜生堂遺跡出土銅戈」大阪府指定文化財指定記念講演会」を実施し、新指定文化財（常設展示品）に関する学術的評価を紹介。  ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館との一体的な活動  ・池上曽根弥生情報館及び池上曽根弥生学習館に出張展示。  ・昨年度に引き続き、史跡池上曽根遺跡周辺エリアの活性化にかかるWGによる定例会議開催、HPにおける共同情報発信を行った。  ・池上曽根弥生学習館ほかとの共催イベント「泉州弥生の郷プロジェクト　弥生の郷の米づくり」を開催。  ・夏季特別展関連ワークショップ「土器でお米を炊こう」を共催イベントとして８月24日（土）に開催（18名）。  ・共催イベント「泉州弥生の郷プロジェクト　『遺跡で考古学者体験！』」を12月８日（日）に開催（23名）。  ・共催イベント「泉州弥生の郷プロジェクト『池上曽根遺跡スタンプラリー』」を3月に開催予定。  ◎自己評価  適切な方法と配慮のもと、資料の収集・保管・展示を心掛けた。また、昨年度と同様に図録や講演会による最新の成果の発信に努めた。  池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館とは定例会議を開催して昨年度に引き続き連携強化を図り、情報の発信、共同イベント実施などに関して当初の予定を上回る実績をあげることができた。 | S | ○資料の収集・保管・展示  評価基準を満たしている。実物資料の適切な管理・活用等が行われているほか、関係機関等からの多数の寄贈図書についても適切に管理されている。  ○調査研究による最新の成果の発信  評価基準を満たしている。内容面では、考古学の研究手法にアプローチした夏季企特別展のほか、秋季特別展では「発掘された日本列島」展を開催するなど、博物館の個性を活かした展示と、その図録を刊行した点が評価される。くわえて、発掘成果や新指定報告も博物館の調査研究発信の取組みとして適切に実施した。  ○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館との一体的な活動  目標回数を超えており、評価基準を満たしている。内容面では、地元市と連携し、共催で体験型イベントを複数回開催するなど、池上曽根遺跡エリアの活性化に大きく貢献している点が評価される。  ◎施設の設置目的および管理運営方針にかかる評価  すべての評価基準を満たしており、上回っている項目も見られる。最新発掘調査成果にかかる展示や講演会を企画実施するとともに、出張展示や地元市との連携など、積極的に池上曽根遺跡エリアの活性化に貢献している点が高く評価される。 | S | S |  |  |
| (2)平等な利用を図るための具体的手法・効果 | ◇公平なサービスの提供と対応、障がい者・  高齢者への配慮がなされているか  〇高齢者、障がい者等への利用援助  〇子供にも分かりやすい解説の充実 | 〇高齢者、障がい者等への利用援助  ・観光庁による「心のバリアフリー認定施設」の認定を取得。  ・聴覚障害者に講演会の内容を理解していただくため、UDトークを導入した。  ・府立聴覚支援学校を含む５校、放課後等デイサービス４団体など、積極的に受け入れを行った。  ・敬老の日に65歳以上は入館料無料として利用促進を図った。（計3名）  〇子どもにも分かりやすい解説の充実  ・夏季特別展、秋季特別展において、通常の解説とは別に子ども向けに館キャラを利用した分かりやすい展示パネルを作成した。  ・通常の音声ガイドに加えて、館キャラを使用した音声ガイドを用意している。  ・館キャラを使用した、ホームページ掲載の漫画を新たに更新した。  ◎自己評価  「心のバリアフリー」に関する研修を実施、法改正や障がい者への対応を職員全員が学び、考え、より良いサービスを提供できるよう体制を整えるとともに、子供に分かりやすい表現で学習資料を作成している。 | A | ○高齢者、障がい者等への利用援助  高齢者や障がい者の利用への援助がなされ、利便性の向上にも目が向けられている。  ○子どもにもわかりやすい解説の充実  自館の個性を生かした形で実施することで、解説の充実を図っている。  ◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価  すべての評価基準を満たしている。職員研修を通して、障がい者や子どもの施設利用への理解を深め、充実を図っている。 | A | A |  |  |
| (3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果 | ◇利用者増加のための工夫がなされているか  〇展覧会・スポット展示などの実施  　・開催回数　５回  〇「木曜大学」などの講座の実施  　・開催回数　30回  〇学校教育との連携  　・学校等の受入    ・出前事業の実施    ・博学連携事業の推進    〇「でかける博物館」事業の実施  　・出張展示　２回  　・出張体験学習　９回  　・出張講座　５回    〇「府民が参加する博物館」事業の実施  　・ミュージアムコンサートの実施　16回  　・ミニギャラリーの実施　３回    〇広報の積極的な展開  ◇利用者数  　〇入館者数及び館外利用者数  　　令和６年度年間目標  　　・入館者数　24,000人  　　・館外利用者数　11,000人  　　令和５年度実績  　　・入館者数　25,652人  　　・館外利用者数　18,809人  　〇類似施設との比較  ◇利用者満足度調査  ○利用者満足度調査の結果  　・「満足」「やや満足」の割合 90 ％ | 〇展覧会・スポット展示などの実施　6回（予定含む）  ・春季企画展「とんぼ玉100人展―ガラスの中の小さなストーリー―」（開催日数56日、入館者8184人）  ・夏季特別展「土器研究の可能性―新たな分析と弥生社会―」（開催日数56日、入館者6455人）  ・秋季特別展「発掘された日本列島2024・地域展　大阪に伝来した龍」（開催日数56日、入館者6220人、大阪府立近つ飛鳥博物館との同時開催）  ・冬季ミュージアムギャラリー\*「神々の微笑・日本文化の根源を求めて―小灘一紀　日本芸術院賞受賞記念『古事記』絵画展―」（開催日数50日（予定））  ＊ミュージアムギャラリー：特別展示室を利用した美術展等（入館料は通常料金設定）  ・弥生プラザ展示「久宝寺遺跡に生きた人々」（令和7年1月21日（火）から6月29日（日）まで）  ・スポット展示（予定、令和７年３月18日（火）から５月頃まで）  〇「木曜大学」などの講座の実施30回（計35回開催予定）  「春季企画展とんぼ玉制作実演」、「夏季特別展関連講演会」、「秋季特別展関連講演会・地域展関連講演会」、「木曜大学予科」\*（新規事業）、「木曜大学」、「木曜大学大学院」を実施。この他「「瓜生堂遺跡出土銅戈」大阪府指定文化財指定記念講演会」を実施。  また、「春季企画展」、「夏季特別展」、「秋季特別展」において弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館の展示担当学芸員が各館で相互に展示見どころを紹介する「〈交換〉講演会」を実施。  （以下予定「冬季ミュージアムギャラリー関連講演会」、「若き考古学徒、論壇デビュー！」、「弥生フェスティバル関連講演会」）  ＊「木曜大学予科」：名誉館長・学芸顧問による「木曜大学」、館長による「木曜大学大学院」開催に先立って、若手学芸員が研究や展示業務の成果を披露する講演会。  〇学校教育との連携  ・学校等の受入れ　85回  　当館における校外学習で歴史への興味・関心をより高める一方策として、下見説明会を開催したり個別の下見も受け入れたりしている。下見の際には、展示内容と教科内容（主に社会科）との関連についての情報提供や、見学する上での公共マナーについての説明を実施している。また、校外学習での学びがより深まるように、池上曽根史跡公園や泉大津市立弥生学習館の活用事例を提供している。  ・出前授業の実施　34回  　出前授業の実施前に当館が提供した出前授業の略案を基に、利用者と出前授業の目的・ねらいを確認し合うと共に、内容や進め方について共有化を図っている。  ・博学連携事業の推進  　保育所・幼稚園の遠足（散歩）の受入れにおいて、保育士教職員と園外活動や食育の観点を大切にした見学内容の共有化に努めている。また、利用者の希望に応じて出前授業も実施している。  社会教育施設の役割として、中学校のキャリア教育の一環  である職業体験学習を受け入れている。  高校と連携することで、生徒向けの展示解説、バックヤー  ドツアー、有料のワークショップ（モノづくり）を実施している。  大学からの要望により、学芸員資格に必要な博物館実習を開催している。  小中高校の教職員対象に博学連携セミナーを、教職員が参加しやすい夏季休業中に開催している。  桃山学院大学の授業カリキュラムの一環として、学生と共同開発したミュージアムグッズ（弥生博物館Ｔシャツ）を販売している。  ○「でかける博物館」事業の実施  ・出張展示（２回）  　大阪府立狭山池博物館スポットテーマ展示「阪神・淡路大震災30年　遺跡からみる災害と復興」、堺市立みはら歴史博物館「大阪府立弥生文化博物館出張展示　米食のはじまり—育てる・収穫する・調理する—」  ・出張体験学習　８回（計10回予定）  　西宮阪急コトコトステージ、池上曽根史跡公園夏祭り、むきばんだフェスタ、ジャパンジョブチャレンジ in SENSHU、秋の民家まつり、泉大津さんままつり、古墳フェスはにコットvol.13、2024友×遊フェスティバルを実施。今後も大阪府立少年自然の家感謝祭オープンデー、弥生学習館ふれあいまつりを実施予定。  ・出張講座　４回（計６回予定）  近鉄文化サロン阿倍野　摂河泉考古学談議2024　２回  大阪府立狭山池博物館　１回  堺市立みはら歴史博物館　２回  松原市郷土資料館　1回  〇「府民が参加する博物館」事業の実施  ・ミュージアムコンサートの実施　11回実施（計16回を予定） 令和６年１月26日に令和６年度コンサート選考委員会を実施した結果16組を選定。和から洋まで様々なジャンルのコンサートを開催している。  ・ミニギャラリー　１回実施（計３回を予定）  「第29回絵画コンテスト『卑弥呼の時代を描こう』」を実施。今後、「大阪府伝統工芸展　伝統工芸のわざ　『漆芸』」「kid’s考古学新聞コンクール全国巡回展」を予定。  〇広報の積極的な展開  ・広報専任スタッフを1名増やし、ホームページ(HP)をさらにバージョンアップするとともに、Facebook、Instagramも含め、有効でタイムリーな情報発信を行った。  ・和泉市、泉大津市のＨＰ及び広報誌に随時イベント情報を掲載いただいている。各新聞社はもちろんのこと、南海電鉄や提携機関の会報誌にもイベント情報を掲載している。  ・地域DMOである大阪観光局、KIX泉州ツーリズムビューローと連携し、各ウェブサイトでのタイムリーな情報掲載を促すとともに、今年度は共催イベントの開催に漕ぎつけた。（ジャパンジョブチャレンジ in SENSHUへの参加。泉州観光地域づくりセミナーの実施。（予定））  ・歴史街道推進協議会に働きかけ、2025年2月に歴史街道倶楽部・歴史ものがたりセミナーを2回、当館で開催することになった。  〇入館者数及び館外利用者数  　令和６年度実績  ・入館者数　23,348人（11月末実績、昨年同月比131.9%）  ・館外利用者数　12,811人（11月末実績、昨年同月比170.0%）  〇類似施設との比較  吹田市立博物館  ・入館者数　8,300人（11月末実績、昨年同月比99.6%）  類似施設と比較しても、当館は前年比131.9%と大幅に伸張している。  〇利用者満足度調査の結果  ・「満足」「やや満足」の割合98％  調査期間：４月１日～11月30日、回答数 848  春季企画展：98%  夏季特別展：99％  秋季特別展：97%  ◎自己評価  特別展等については指定管理者業務仕様書において年３回以上の開催が求められているところ、今年度は、春季企画展、夏季特別展、秋季特別展に加えて、冬季ミュージアムギャラリーを開催し、計４回の実績となる予定。関連講演会やＷＳを含め内容・回数共にスケールアップして開催したほか、大阪府内での開催は10年ぶりとなる「発掘された日本列島展」を近つ飛鳥博物館との同時開催により実施できたことも大きな成果と考える。  また、あらたに来館者のニーズへの対応として木曜大学予科を開講したほか博学連携の試みとして桃山学院大学の授業と連携し、ミュージアムグッズ（オリジナルＴシャツ）の作成を行った。  　関西経済界・行政が支援する歴街道推進協議会とのコラボレーションも今後深めていきたい。 | S | ○展覧会・スポット展示などの実施  目標回数を超えており、評価基準を上回る。  資料の展示にとどまらない挑戦的な内容の夏季特別展のほか、大阪府立近つ飛鳥博物館と同時開催した「発掘された日本列島2024」では、全国規模の大きな展覧会を実施するなかで、自館の強みをふまえた内容の地域展を展開することにより、利用者増加に向けた博物館の個性のアピールにつながった。くわえて、冬季ミュージアムギャラリーを開催することにより、各季節それぞれで特別展示室を利用した比較的大規模な展覧会に取り組んでいる点が評価される。  ○「木曜大学」などの講座の実施  記入時点で既に評価基準を満たしており、年度末までには評価基準を上回ることが見込まれる。従来の講座の実施形態にくわえて、新しい講座の企画に挑戦したことにより、実施回数的な面でも、講演の多様化による質的な面でも評価される。  ○学校教育との連携  ・学校等の受入  実施されており評価基準を満たす。  ・出前授業の実施  実施されており評価基準を満たす。  ・博学連携事業の推進  実施されており評価基準を満たす。  ○「でかける博物館」事業の実施  ・出張展示  評価基準を満たす見込みである。  ・出張体験学習  評価基準を上回る見込みである。  ・出張講座  評価基準を上回る見込みである。  ○「府民が参加する博物館」事業の実施  ・ミュージアムコンサートの実施  評価基準を満たす見込み。  ・ミニギャラリーの実施  評価基準を満たす見込み。  ○広報の積極的な展開  実施されており評価基準を満たす。  各関係機関にチラシを配布するほか、ホームページやSNSを使用した迅速な広報を行っている。特に鉄道事業者を始め、地域DMOとの連携など、積極的な広報活動を行っている。  ○入館者数及び館外利用者数  入館者数は記入時点で目標値に迫っており、目標を超える見込み。館外利用者数については既に目標を達成している。  ○類似施設との比較  　昨年のコロナ禍関係の規制緩和以降、吹田市立博物館においては入館者数が安定していることが認められる。弥生文化博物館においては、積極的な各種活動に比例して、入館者数が大きく増加していることが評価される。  なお令和元年度との比較においては、両館はともにコロナ以前の水準に向けて回復しつつある。  〇利用者満足度調査の結果  ・「満足」「やや満足」の割合  目標値を大きく上回る成果である。  ◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果にかかる評価  評価基準を満たしており、評価基準を大きく上回る項目も見られる。展示や講演会などの活動が目標を大きく上回っていることや、これらの展示等活動の内容面の充実から、積極的な活動姿勢がうかがえる。ほか、昨年度に引き続き、企画立案や広報における地域との新たな連携等、取組を強化し実施している点が高く評価できる。 | S | S |  |  |
| (4)サービスの向上を図るための具体的手法・効果 | ◇サービスの向上が図られているか  〇インターネットの活用  　・ホームページの更新  　　　更新回数　24回  　・ＳＮＳの活用  　　　Facebook、Instagramの投稿数  計130回  〇施設の積極的な活用  　・体験ゾーンの活用    ・1Ｆフリースペースの活用  〇展示解説リーフレット・解説シートの配付 | 〇インターネットの活用  ・ホームページの更新　更新回数　61回  ・SNSの活用　投稿数計124回（11月末実績）  　Facebook投稿数62回（フォロワー2,713人）  Instagram投稿数62回（フォロワー1,230人）  ホームページ、Facebook、Instagramにおいて催事の告知や館の活動を発信した。  〇施設の積極的な活用  ・体験ゾーン　143回  　小学校だけではなく放課後等デイサービスなどにも、利用の促進を図った。また、活動後達成感・成就感を体感するために、体験ゾーンの進め方や体験ゾーンの活動に目標やねらいを設定することを提案した。  　各種団体の体験ゾーンの利用について、利用者と人数、年齢、身体能力等の点について一緒に考えた。  ・1Ｆフリースペースの活用  　学習館、情報館のパンフレットを配架し、当館を含んだ三館を紹介する池上曽根史跡公園のガイドマップを設置している。  また、ワークショップの会場や、秋季特別展に関連するパネル展示や、映像を放映した。  〇展示解説リーフレット・解説シートの配付  展示解説リーフレット２冊：夏季特別展、冬季ミュージ  アムギャラリー（予定）  展示解説シート１件：弥生プラザ（予定）  ◎自己評価  　広報専任スタッフを1名増員し、HP、SNSのよりタイムリーな展開ならびに印刷物作成の強化を図った。 | A | ○インターネットの活用  ホームページやSNSにより積極的にイベントの告知や館活動の発信がなされている。投稿回数についても評価基準を満たしており、適切な運営がなされている。  ○施設の積極的な活用  実施されており評価基準を満たす。  ○展示会図録の刊行、展示解説リーフレット・解説シートの配布  実施されており評価基準を満たす。  ◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価  すべての評価基準を満たしている。１階フリースペースの活用方針が定まり、体験ゾーンの利用を拡充した点は、池上曽根遺跡エリア全体のサービス向上に資する取組みと評価できる。 | A | A |  |  |
| (5)施設及び資料の維持管理の内容、的確性 | ◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か  　〇施設及び資料の管理  　・年間計画の策定と適切な実施    ・定期点検の実施と記録簿の作成  〇危機管理  　・マニュアルの履行  　・訓練の実施 | 〇施設及び資料の管理  ・年間計画の策定と適切な実施  　AKN共同事業体各社の柔軟な連携をもとに、施設管理年間計画を策定、月１回のＪＶ会議を開催し、情報共有・対応策の即時実施に努めた。  ・定期点検の実施と記録簿の作成  近鉄ファシリティーズ社による年間点検計画の計画的履行と報告書の作成、消防署への提出を行った。  〇危機管理  ・危機管理マニュアルの更新並びに和泉消防署の監督による消防訓練を実施する。(12月27日)  ・2025年2月初旬に、和泉消防署の依頼により、文化施設における共同消防訓練を当館で実施する。  ◎自己評価  　和泉警察署の監督、連携のもとに消防訓練を2回実施し、被災時に円滑な行動が出来るよう職員を教育する。 | A | ○施設及び資料の管理  ・年間計画の策定と適切な実施  年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。また、緊急を要するケースにおいても、状況の速やかな把握、対応策の実施等、適切な対応がなされている。  ・定期点検の実施と記録簿の作成  施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録簿の作成がなされている。  ○危機管理  マニュアルが適切に履行され、検査の実施がなされている。防災訓練が適切に行われる見込み。  ◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価  すべての評価基準を満たしている。特に消防訓練の実施予定や、危機管理マニュアルの更新・災害対応の検討など、有事の際に適切な対応をするよう心掛けられている。 | A | A |  |  |
| (6)府施策との整合 | ◇提案に沿った府施策との整合が図られているか  〇「こころの再生」府民運動への協力  　・「こどもファーストデイ」の実施 12回  ◇就職困難者等の雇用  ◇府民・NPOとの協働  ◇環境問題への取り組み  ◇『大阪府文化財保存活用大綱』をふまえた  　運営  ◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理的配慮の提供 | 〇「こころの再生」府民運動への協力  ・「こどもファーストデイ」の実施　８回実施（計12回実施予定）  毎月第３土曜日を「こどもファーストデイ」としてワークショップを開催し「まいど子でもカード」を提示いただいた同伴の保護者についても入館無料とした。  ◇就職困難者等の雇用  知的障がい者１名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。  ◇府民・NPOとの協働  ・ミュージアムコンサートは11回実施（計16回実施予定）  ・ボランティア活動は、各種イベントにおいて、活用。  ・NPO「はにコット」主催のイベントへ参加。（11月）  ◇環境問題への取り組み  ・クールビズ・ウォームビズの取り組みを実施し、昼食時の  室内消灯、昼間の廊下の消灯など消費電力の低減を図った。また、ごみの分別を職員に意識付けを行った。  ◇『大阪府文化財保存活用大綱』をふまえた運営  ・活用拠点の運営（府立博物館）に基づき、企画展・特別展  の実施など「展示・公開」、こどもファーストデイ・出前授業など「体験・体感・ワークショップ」、特別展関連講演会の実施・図録作成など「講座・講演会・出版」、を関連機関、周辺地域と連携し、着実に実行した。  ・多面的な価値を生み出す取組として、将来を担う子供たちの育成の一助とするため、中・高校生を対象とした職場体験学習を実施し、地域の歴史や文化に対する理解を醸成した。  ◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理的配慮の提供  ・合理的配慮を提供することを目的に、館職員全員に研修  を実施した。（9月）  ◎自己評価  府の諸施策を反映した取り組みを確実に実行している。  館内・館外イベントを精力的に開催・参画し、多くの来館者を獲得するとともに、ミュージアムコンサートの開催日を増やすなど、親しみやすい博物館をアピールした。  また、心のバリアフリー認定施設として、職員の意識・サービスの質の向上に引き続き努めたい。 | A | ○「こころの再生」府民運動への協力  ・「こどもファーストデイ」の実施  年度内に評価基準を満たす見込みである。  ◇就職困難者等の雇用  計画どおり雇用されている。  ◇府民・NPOとの協働  　適切な協働の企画が実行されている。  ◇環境問題への取組み  適切に実施されている。  ◇『大阪府文化財保存活用大綱』をふまえた運営  保存活用大綱の内容をふまえ、文化財の活用拠点として運営されている。  ◇大阪府障がい者差別解消条例等に基づく合理的配慮の提供  　適切に研修が実施され、合理的配慮の提供を可能としている。  ◎府施策との整合にかかる評価  すべての評価基準を満たしている。特に博物館周辺エリアとの連携を強め、「活用」の拠点として適切に運営されている。 | A | A |  |  |
| **Ⅱさらなるサービスの向上に関する項目** | (1)利用者満足度調査等 | ◇利用者満足度調査の実施により利用者の  意見を把握し、その結果を運営に反映しているか | ◇利用者満足度調査の実施による利用者意見の反映  ・各種アンケート（特別展、企画展、木曜大学・大学院・予科、講演会、コンサート）の意見を取入れ、お客様の満足度向上に資するアクションをとるよう心掛けている。  ◎自己評価  今年度もお客様から高い評価をいただくことが出来た。  常に、お客様からのアンケート記載内容をもとに、全館会議で検討し、改善を行う体制をとっている。 | A | ◇利用者満足度調査の実施による利用者意見の反映  利用者の意見を反映した事業実施がなされており、評価基準を満たしている。  ◎利用者満足度調査等  調査実施の結果のまとめ・分析・共有が行われ、利用者の意見を反映して管理・運営が改善されており、新たな試みを多く行う中においても良好な博物館環境の維持に努めていると評価できる。 | A | A |  |  |
| (2)その他創意工夫 | ◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか  〇動画などの公開  　・インターネットでの解説動画等の公開  　　　３件 | 〇動画等の公開　２件  ・夏季特別展紹介動画　１件  ・秋季特別展紹介動画　１件  冬季ミュージアムギャラリーにも動画を作成予定。  ◎自己評価  来館者からのアンケートに基づき、ホームページの「ご案内」に館内催事がカレンダー上でわかる「催し物カレンダー」を追加した。  また、各展示ごとに展示状況や来館者への宣伝を兼ねた動画を制作し、公開した。 | A | ○動画等の公開  今後の実施予定を含め、評価基準を満たす見込みである。  ◎その他創意工夫にかかる評価  需要に応じてホームページに工夫を凝らすなど、より満足度の高いイベントの提供を心掛けている点が評価される。 | A | A |  |  |
| **Ⅲ適切な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項** | (1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度 | ◇事業収支について、計画どおりに実施されているか | ◇事業収支計画  【収支計画（当初予算）】  収入（税込）  大阪府委託費　 126,921,000円  入館料収入等 3,500,000円  計　　　　　　 130,421,000円  支出（税込）  施設維持管理費　31,303,000円  人件費他 99,118,000円  計　　　　　　 130,421,000円  11月末現在の進捗状況  収入（指定管理料を除く事業収入）104％  支出（11月分請求書まで）　　　　65％  ◎自己評価  入館料収入は11月末現在で事業計画の132％に達し、年度末までの最終で150％程度となる見込みである。昨年度同時期対比204％増で、春季企画展、夏季、秋季特別展への来館者数の増加および、特別展開催件数の増加が、入館料収入増につながっている。（入館者数：昨年度同時期対比131％増）  支出の割合は、11月末現在で65％。経費節減に留意し、おおよそ計画どおりに進捗し安定的な運営を実現している。 | A | ◇事業収支計画  経費節減に加え、補正予算策定などにより、適切な経費執行が行われている。  ◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度にかかる評価  入館料収入が事業計画を上回っている点が評価される。計画的な支出に取組み、バランスの取れた執行が図られている。 | A | A |  |  |
| (2)安定的な運営が可能となる人的能力 | ◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか  ◇従業者への管理監督体制・責任体制が整備されているか | ◇指定管理者で雇用している学芸員2名について、7月末に1名退職。もう1名についても9月より出勤日数が減少することとなった。学芸資格を持つミュージアムスタッフから移籍することで1名補充。非常勤の派遣スタッフ2名を配置することで不足分を補っている。  ◇ＡＫＮ共同事業体における博物館定例会議、文化財保護課との連絡会議（各月１回）及び博物館内会議（週１回）を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行っている。  ◎自己評価  引き続き学芸員の常勤職員の確保に努める必要があると考えている。その他については監督体制および責任体制を明確化し適切に事業実施ができている。 | A | ◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか  計画通りの人員が配置され、充実した事業実施がなされている。  ◇従業者への管理監督体制・責任体制が整備されているか  共同事業体間で日常的に密な連絡調整・情報共有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで管理・運営がなされている。  ◎安定的な運営が可能となる人的能力にかかる評価  学芸員の配置について、館の現状に向き合い、対応する姿勢が認められる。確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。 | A | A |  |  |
| (3)安定的な運営が可能となる財政的基盤 | ◇法人の財務状況は適切か | ◇【アクティオ株式会社】  指定管理事業で大型案件を受注するとともに、地方での新規案件も順調に受注する。加えて、人々の社会活動の活性化に伴う施設利用料や自主事業の売り上げが増加したことにより、売上高は前期比13.5％増となる。  令和５年度決算（2023年1月～2023年12月）  売上高　　　10,438,115千円  売上総利益　 1,694,200千円  営業利益 395,203千円  経常利益　　　 473,757千円  純利益 324,361千円  借入金なし  【近鉄ファシリティーズ株式会社】  近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民  間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに事業統合  並びに徹底したコスト削減により安定的収益を維持して  いる。  令和６年度上半期  売上総利益982,894千円  営業利益 358,094千円  経常利益 482,282千円  純利益 330,282千円  借入金なし  【株式会社乃村工藝社】  上期売上高は、下期に大型案件の進捗が集中している影響もあり前年同期に比べ減収となっているが、  通期業績予想は、需要回復および下期に控える大型プロジェクトを着実に推進することで 増収で着地する確度が高いと見込んでいる。  令和6年度上半期（2024年３月１日～2024年８月31日）  売上高　　　　　57,945,000千円  営業利益　　　　1,442,000千円  経常利益　　　　1,527,000千円  四半期純利益　　851,000千円 | A | ◇法人の財務状況は適切か  アクティオ株式会社・近鉄ファシリティーズ・乃村工藝社の三社共に経営状況は安定しており、借入金もない。  ◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価  グループの各構成員とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。 | A | A |  |  |

　Ｒ５年度評価：A

　　Ｒ６年度評価：A

Ｒ７年度評価：

総合評価（Ｒ５～７年度）：II

最終評価（Ｒ５～７年度）：

※評価の基準：モニタリング評価は、次の基準により行うこととする。

①項目ごとの評価は下記の４段階評価とする。

　Ｓ：計画を上回る優良な実施状況　Ａ：計画どおりの良好な実施状況　Ｂ：計画どおりではないがほぼ良好な実施状況　Ｃ：改善を要する実施状況

　②年度評価は、次の４段階評価とする。

　Ｓ：項目ごとの評価のうちＳが５割以上で、Ｂ・Ｃがない　Ａ：項目ごとの評価のうちＢが２割未満で、Ｃがない　Ｂ：Ｓ・Ａ・Ｃ以外

Ｃ：項目ごとの評価のうちＣが２割以上。又はＣが２割未満であっても文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合

③総合評価及び最終評価は、次の４段階評価とする。

Ⅰ：評価対象となる年度の年度評価のうちＳが５割以上で、Ｂ・Ｃがない　Ⅱ：評価対象となる年度の年度評価のうちＢが３割未満で、Ｃがない　Ⅲ：Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ以外

Ⅳ：評価対象となる年度の年度評価のうちＣが５割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く

※備考：Ｒ６年度は総合評価、Ｒ７年度は最終評価を行う。